

## Micro-Tom 栽培方法

※下記栽培条件は、弊社で行っている条件です。

### ◆ Micro-Tom 栽培条件

温度：25℃～28℃

湿度：40%～50%

光周期：明期 16 時間、暗期 8 時間

光強度：5000lux～6000lux（白色蛍光灯）

### ◆ 土壌栽培

① 種子を 1～2 時間、水に浸けておく。

② ビーポットに土（サカタのタネ：スーパーミックス A、肥料なし）を入れ、①の種子を置き軽く土をかける。

③ 発芽後、5～10cm くらいに成長したら、直径 10cm 程度の鉢に植え替える。

（サカタのタネ：スーパーミックス A、肥料：マグアンプ K）

④ 週 3 日、底面吸水で水遣りをする（3 日の内 1 日は 1,000 倍希釈したハイポネックス水）。

⑤ 適宜、支柱等を立てる。

⑥ 果実が赤くなったら、収穫する（収穫後は冷蔵保存）。

### ※ 注意点

- 果実は成熟しすぎると中で発芽してしまうため、濃いオレンジ色くらいで収穫する。
- 放置すると続けて果実がなるが、果実自体が小さくなり種子を形成しなくなったり、4 倍体になる可能性がある。

### ◆ 無菌栽培（種子検定）

➤ 播種培地組成：pH5.8 に調整

➤ プラントボックスに 50mL ずつ分注し、オートクレーブにかける

試薬名	終濃度
sucrose	0.5 %
寒天末	0.8 %
ハイポネックス（粉末）	0.15 %

① 種子を 10cm 四方のガーゼに包み、針金でと留める。

② 50mL チューブに入れ、70%エタノールに浸し、2 分間振とうする。

③ エタノールを捨て、10 倍希釈ハイターに浸し、45 分間振とうする。（5 倍希釈ハイターで 20 分でも可）

\*\*\*これ以降、クリーンベンチ内で操作する\*\*\*

④ 滅菌水で泡が消えるまで良くすすぐ（5 回以上）。

⑤ 滅菌水に一晩浸しておく（クリーンベンチ内の UV は切る事）。

⑥ もう一度、滅菌水ですすぐ。

⑦ 滅菌したキムタオルで余分な水分を取り、播種用培地に 16～25 粒ずつ播種する。

⑧ アルミホイルで包み、栽培棚に移す。

⑨ 4～5 日後にアルミホイルを取り、栽培を続ける。

※ ポイント

- 種子は 37℃で休眠打破しておく（半日～一晚）。
- 針金で留める時は、後でピンセットで開けられる程度の強さしておく。
- 滅菌水で洗浄し泡が出なくなっても、時間が経つと種子やガーゼから出てくるので、途中で何度かすすぐと良い（播種前にはもう一度すすぐ事）。
- 使用する培地は常温に戻し、できるだけ水滴を除去する。
- ピンセットの背を利用して、培地に種子を置く。
- 発芽率が悪い場合は、播種後 28℃下に置いておくと良い（暗黒下）。
- 発芽するまでアルミホイルで包んでおくと、発芽時期が揃いやすい。

◆ 種子精製

- ① 水（水道水）を入れたビーカーとスパチュラを用意する。
- ② トマトの赤道面に沿って切れ目を入れていく。
- ③ トマトが開いたら、ゼリー状の部分ごと取り出す。
- ④ 水に沈まなかった種子は除去する。
- ⑤ 茶濾しに種子を移し、水道水で洗い、できるだけゼリーを除去する。
- ⑥ 水分を切ってビーカーへ戻す。
- ⑦ 種子が浸るくらいの量の 0.1M HCl を加え、10～15 分間放置する。
- ⑧ 途中で何度か攪拌し、ゼリーを除去していく。
- ⑨ ゼリーが除去できたら、水道水で塩酸を洗い流す。（酸廃液の処理に注意）
- ⑩ 流水で 1 分程度洗う。
- ⑪ 茶濾しごと、軽く水分を切る。
- ⑫ 種子を薬包紙等に移し、水分を除去する。
- ⑬ 一晚、自然乾燥させる。
- ⑭ 乾燥した種子をチューブ等に入れ、シリカゲルを入れて常温にて保存する。